

子育て支援だより

「子育てワンポイントアドバイス」

第129回 「落ち着かない子どもは、褒めて育てよう！」

みえ発達障がい支援システムアドバイザー 竹村 マミ

いつも体が動いていて静止できない子、勉強中も直ぐに姿勢が崩れたり筆箱を触ってみたりして落ち着いて話が聞けない子がいます。「じっとしなさい」「姿勢正しく座りなさい」と言いたくなりますが、中には、体を揺らしながらの方が集中できたり何か物を持っている方が話が入りやすい子もいるのです。そこに気づかずに態度を直そうとするため、どうしても注意が多くなります。しかし、何度注意されても直すことはなく、子どもは、知らず知らずのうちに自己肯定感が低くなっていきます。そして、いつか非行に走るなどの二次的な障害の結果を生む可能性が大なのです。

では、どのようにかかるとよいのでしょうか。

まずは、どのくらいの持続性があるのか、体が動いていても集中できているのか、何が得意なのか、子どもを知ることから始めてください。その上で、数十秒でもきちんと座れている等、できているときを褒めてもらうことが大事です。あまりにも姿勢が崩れて集中が切れたとき、「一度、座り直そうね」と仕切り直しの声かけをする程度で、許容範囲を広げてあげてください。それから、得意なところを見つけて褒めて伸ばすことができれば、将来が変わると思います。

リオデジャネイロオリンピックにおいても大活躍した金メダルだけで23個という素晴らしい功績の競泳マイケル・フェルプス選手は、小学校で「何一つ集中できない」と言われ、9歳でADHD（注意欠陥多動性障害）の診断を受けています。でも、母親が、子どもの可能性を信じて育ててきた結果が、フェルプスの人生を大きく変えたといえるでしょう。

ちょっとした工夫がいりますが、その子に応じたかかわりが必要になります。あくまでも、一般的な支援の方法です。微妙に異なる場合がありますので、気になることがありましたら、子育て健康課（377-5652）まで、ご相談ください。

8月活動報告

学童ランチパーティー！（あさひプッチボラ事業）8月22日

学童保育所日の本クラブとおうかんっ子クラブの1・2年生を対象に行いました。食育のビデオを見た後、みんなでおいしくラップ寿司とフルーツポンチをいただきました。



野菜は大切！頑張って食べよう！

自分で作ったお寿司は最高！

